

学校関係者評価委員会(第4回)議事録

1 日 時 令和4年6月21日(火) 午前10時~11時10分

2 場 所 (専)京都中央看護保健大学校

3 出席者

| | | |
|--------|--------|-------------------------|
| 【評価委員】 | 塚本 美晴 | 学識経験者(武田病院グループ本部 看護部部長) |
| | 澤田 典子 | 学識経験者(京都工場保健会 総務部教育研修課) |
| | 神雲 玉枝 | 保護者代表(看護学科) |
| | 笈入 弘子 | 同窓会が推薦する者 |
| | <欠席> | 田宮 禎子 保護者代表(看護保健学科) |
| 【学 校】 | 石束 佳子 | 顧問 |
| | 阿形 奈津子 | 副学校長(看護学科長兼務) |
| | 土井 直也 | 事務局長 |
| | 出野 順 | 事務部長 |
| | 上山 みゆき | 看護保健学科長 |
| | 山本 絵奈 | 看護学科副学科長 |
| | 田淵 眞由美 | 看護保健学科副学科長 |
| | 川崎 紀子 | 看護保健学科副学科長 |
| | 池田 恵 | 看護学科専任教員(カリキュラムリーダー) |

4 概 要

(1)開会あいさつ(土井事務局長)

- 自己評価の結果を次年度の運営・教育にすぐに反映させることができるよう、関係者評価委員会の開催時期を6月に早めている。
- 令和4年3月に副学校長を退任した石束には今年度から顧問として学校に残ってもらい、後任の副学校長には阿形が就任しているので、今後ともよろしく願いたい。
- 今年度、開校40年を迎える。施設・設備の老朽化が進むなか、夏期休業期間中に第1看護実習室の改修を予定している。また教材についても新しくしていくことを考えている。
- 依然、コロナの影響は大きいですが、ピンチはチャンスと考えてICT教育のための環境整備を進めてきた。今後も続くであろうコロナ禍の中で、どのような学校運営を行うことが必要かについてご意見をいただきたい。

(2)出席者紹介

(3)委員長及び議事録署名人の選任

- 委員長 塚本委員
- 議事録署名人 澤田委員

(4)(専)京都中央看護保健大学校自己評価の説明(阿形副学校長)

①資料の修正についての説明

【修正箇所】「令和3年度(令和3年4月～令和4年3月)学校自己評価結果の概要」

2. 令和3年度学校自己評価結果の概要

4)小項目ごとの学校自己評価結果の推移[表2参照]

③評価が上昇した項目に「20と5項目」を追加する。

④評価が低下した項目「43」を削除する。

②評価方法に関する説明

○自己評価委員会委員が分担して評価し、その結果を委員以外の職員が点検・評価している。

○自己評価委員会委員が一部交代したため、分担する評価項目について見直しを行っている。

③前年度の学校関係者評価委員会で指摘のあった課題に関する説明

【項目9】学生の課外活動状況

・コロナ禍のため十分には実施できていない。

【項目38】図書室における看護学関係の蔵書・新刊の範囲と数

・担当職員に評価結果をフィードバックし、課題の解決に向けて検討中である。

【項目54】研究誌の編集方針と発刊状況

・教育業務が多忙のため原稿作成の時間が確保できず、内部教員からの投稿が難しい状況にある。

【項目56】国際交流

・方針・目標の見直しが必要である。

④令和3年度自己評価結果に関する説明

○大項目ごとの評価結果の推移の説明(表1参照)

○大項目ごとの評価結果の推移の説明(表2参照)

○まとめ ・運営・財政は安定している。

・年度途中の退学によって年度末には看護学科で1名の定員割れとなった。

・「国際交流」の項目は方針・目標の見直しが必要だが、着手できなかった。

(5)意見交換

○評価は「ア. 方針・目標」に対する評価か、それとも「イ. 現状・具体的な取組等」や「ウ. 課題・解決方法」を含めた評価か。

⇒「ア. 方針・目標」に対しての評価である。

○「…を把握する」という方針・目標の項目がいくつかあるが、把握できているのに評価が低いものがある。評価方法を統一すれば結果が違ってくるのではないか。

○評価項目13

「アンケート結果を会議に提示したが討議できていない」とあるが、IT環境を整えているので

あれば情報共有は問題ないのではないか。全体でチェックすることが大切なので、強制的にやってみてはどうか。

○評価項目 24

「一般社団法人京都私立病院協会会員病院への就職が減少している」とあるが、今ほどの程度か。また、解決方法としてマッチングイベントの実施や、外部講師の講義のなかで所属病院の紹介をする時間を設定してはどうか。

⇒以前は80%以上だったが、現在は60~70%である。学校法人の理事会では「他大学と比較しても頑張っている」と評価をいただいている。

○評価項目 27

「入学者の学力レベルの低下」とあるが、そうしたなかで看護師国家試験の合格率が高いのはこの学校のすごいところである。

○評価項目 31

「専門領域にかかる主担当が不在の場合は兼任で行っている」とあるが、全く違う領域でないのであれば評価を上げてもいいのではないか。

⇒講義は専門科目を担当している。臨地実習は他の領域も担当する場合があるが、その際は事前に説明して了解を得て、必要に応じてその領域の担当教員と一緒にしている。

○評価項目 32

方針・目標は研究に特化している。研究以外に頑張っていることがあると思うので、方針・目標を変更した方がいいのではないか。

○教員が入れ替わっていくなかでこの2年間徐々に醸成されてきて、学校の努力が伺える。

○ベクトルを合わせるのがこの自己評価であるが、他校の評価と比較したりすることはできるのか。

⇒日本看護学校協議会が4年に1回出しているデータと比較することが可能である。

○これだけ多くの項目に対する評価に20名が関わっていることが重要だと思う。そのなかで評価の整合性の担保や、新規評価者への説明はどうしているのか。

⇒委員が行った評価を委員以外の職員が評価する際、必要に応じて2名で話し合いながら最終評価を下している。

○教員が起こした事件が評価に影響したことはあるか。また学生のケアを優先してほしいがどう対処しているのか。

⇒教員が私生活で起こした事件であり、評価への影響はない。事件に対する対処は学生の不安を軽減することを優先し、目の前にある教育に誠実に取り組むことが大切だと考えて対応してきた。何人かからは問い合わせがあり対応した。

(6)閉会あいさつ(石束顧問)

○一つ一つの項目に意見をいただき、お礼を申し上げる。最後の項目まで十分に時間が取れなかったことは、会議の時間設定に課題があったと考えている。

○そのおかげで目標の妥当性、評価対象の統一など、改めて検討が必要であることが理解できた。

○さらに、日頃の教育指導、教員指導等における課題も見つけることができた。今後もぜひ学校に対して関心を持っていただき、広く意見をいただければ幸いである。

(専)京都中央看護保健大学校 関係者評価委員会 自己評価結果一覧

標記の条件：赤字は60%以下

80%以上

令和2年度より低

令和2年度より上

| 評価項目 | | 評価結果 | | |
|--|---|---|-------|---|
| | | 令和2年度 | 令和3年度 | |
| I 教育理念・目的・目標 | 1 都中央看護保健大学校(以下、大学校という)の教育目的・目標達成のための教育への取り組み | 3 | 3 | |
| | 2 大学校の教育理念・目的・目標の定期的な評価 | 4 | 4 | |
| | 3 大学校の教育理念・教育目的・目標達成のための教育課程の開発 | 3 | 3 | |
| | 4 本大学校の将来構想 | 3 | 3 | |
| II 教育活動 | 5 学生募集や入学者選抜の方針 | 3 | 4 | |
| | 6 学生定員の充足状況 | 5 | 4 | |
| | 7 奨学金や授業料減免制度の状況 | 4 | 5 | |
| | 8 学生生活相談の実施状況 | 4 | 4 | |
| | 9 学生の課外活動状況 | 2 | 3 | |
| | 10 科目のカリキュラム全体における位置づけ | 3 | 4 | |
| | 11 カリキュラムの編成やその見直しの方法・体制 | 3 | 3 | |
| | 12 教員一人が担当する授業(講義・演習・実験・臨地実習)時間数、科目 | 4 | 4 | |
| | 13 各授業項目ごとの授業概要(シラバス)の状況 | 3 | 4 | |
| | 14 カリキュラムガイダンスの実施状況 | 4 | 4 | |
| | 15 各授業科目における授業内容の調整状況 | 4 | 4 | |
| | 16 授業(講義・演習・実験・臨地実習)の実施状況 | 4 | 4 | |
| | 17 看護学実習施設における教育条件の整備状況(指導者・学生配置・年間計画) | 3 | 3 | |
| | 18 単位互換の方針と実施状況 | 4 | 4 | |
| | 19 学生の進級・卒業状況(留年、休学、退学等) | 5 | 5 | |
| | 20 授業方法に関する取り組み状況(研究会等) | 4 | 4 | |
| | 21 教員の教育活動に対する評価状況(学生による授業評価等) | 3 | 3 | |
| | 22 教授方法の工夫のための学生・卒業生・教員等の意見の取り入れ | 4 | 3 | |
| | 23 成績評価、単位認定の方針と基準 | 5 | 5 | |
| | 24 卒業時の学生の就職状況 | 5 | 5 | |
| | 25 卒業時の学生の進学状況 | 5 | 5 | |
| | 26 卒業時の学生の看護に関する実践能力の修得状況 | 3 | 3 | |
| | 27 卒業生の資格取得状況(看護師、保健師、助産師) | 5 | 5 | |
| | 28 卒業生の職業的発達に関わる活動状況(就業状況、職能団体活動、研究活動、継続教育、卒後教育等) | 3 | 3 | |
| | III 教員組織 | 29 教育理念・目的・目標を達成するための専任教員数と非常勤講師数の充足状況 | 3 | 3 |
| | | 30 専任教員と非常勤講師の担当科目の配置と割合 | 3 | 3 |
| | | 31 教員個々の担当領域の適切性(学位、専門分野、臨床経験、教育経験等と担当領域) | 4 | 4 |
| | | 32 教員個々の活動状況(教授、研究、管理、臨床、地域社会における学外活動等) | 3 | 3 |
| 33 教員の採用にかかわる基準 | | 4 | 4 | |
| 34 教員の人事に関する計画 | | 3 | 3 | |
| 35 教員の昇進に関わる基準 | | 3 | 3 | |
| 36 教職員の職業的満足、身体的・精神的健康、組織へのコミットメント等の状況 | | 3 | 3 | |
| IV 施設設備 | 37 大学校の教育目標を達成するための施設・設備の整備・運用状況 | 3 | 3 | |
| | 38 図書室における看護学関係の蔵書・新刊の範囲と数 | 2 | 2 | |
| | 39 図書室の利用状況 | 3 | 3 | |
| V の社会と連携 | 40 社会人の受入体制の整備と受入状況 | 4 | 4 | |
| | 41 看護学実習等における施設提携・地域社会との連携状況 | 3 | 3 | |
| | 42 看護学教育活動を通じた地域社会への貢献状況 | 3 | 3 | |
| VI 管理運営・財政 | 43 大学校の事務組織が行っている管理・運営の状況 | 4 | 4 | |
| | 44 大学校の管理・運営への教員・管理者の参加状況 | 4 | 4 | |
| | 45 大学校の管理・運営への学生の参加のための体制 | 4 | 4 | |
| | 46 大学校の管理者の看護学領域の教育背景および教育経験に関する規程 | 4 | 4 | |
| | 47 計画立案や資金配分等に対する大学校の管理者の責任と権威 | 5 | 5 | |
| | 48 大学校の管理者に対する行政管理の仕事とリーダーシップを発揮できる十分な時間の保証 | 3 | 3 | |
| | 49 大学校の予算配分・編成・執行の方針と状況 | 5 | 5 | |
| | 50 大学校の学校外資金の導入状況 | 5 | 5 | |
| | VII 自己評価体制 | 51 大学校のカリキュラムの定期的な評価 | 4 | 3 |
| | | 52 学校自己評価結果をフィードバックするための学内組織とその活動状況 | 4 | 4 |
| 53 教員の教育活動を公表する機会の提供 | | 3 | 3 | |
| VIII 研究活動 | 54 研究誌の編集方針と発行状況 | 2 | 2 | |
| | 55 研究活動の実施と支援 | 3 | 3 | |
| IX 国際交流 | 56 国際交流 | 2 | 2 | |
| 小項目の平均 | | 3.6 | 3.6 | |